

コード	303030401
記入日	H23.6.10

課コード	110
課名	福祉長寿課
課長名	峯脇 泉
担当者	平尾 好春

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	敬老祝金事業費
----------	---------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 ー 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	303	施策名称	お年寄りの元気を支える体制づくり	項コード	1
基本事業コード	30303	基本事業名称	高齢者の生きがい対策の推進	目コード	3
事務事業コード	3030304	事務事業名称	敬老祝金事業費	細目コード	231
関連計画	新上五島町老人保健福祉計画		法令・条例規則等	新上五島町敬老祝金支給条例・施行規則	

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 高齢者に敬意を表して祝福するため、一定の年齢の者	(対象2)	(対象指標1)	770人			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・支給要綱に基づき支給するために、該当者の調査を行った。 →敬老祝金 7,700千円	*****	*****	*****	調査回数1回+予定回数1回	*****
		① 調査回数	1回	100%		平成22年度
		① (達成率分析)	調査を行い、該当者全員を把握した。			
		② (達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
	・長寿を祝福する敬老祝金を給付することで、高齢者に敬意を表することを目的とする。	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		*****	*****	*****	支給人数770人+対象者数770人	*****
		① 支給人数	770人	100%		平成22年度
		① (達成率分析)	支給対象者全員に支給した。			
		② (達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 回	5	5	4	1	1					
	②										
成果指標	① 人	3,664	3,692	2,922	742	770					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	60,013	60,281	52,581	7,432	7,700					
直接事業費 A	千円	60,013	60,281	52,581	7,432	7,700					
人件費 B	千円										
内訳	従事職員数	人									
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	60,013	60,281	52,581	7,432	7,700					

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	敬老者への敬意と長寿祝福のため必要である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	高齢社会の中では必要である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	以前は70歳以上を対象としていたが対象者を絞り現在に至っている。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	対象者の見直しにより、特定の年齢支給となり当初は諸々の意見もあったが定着してきている。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	特になし。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	対象者の絞り込みでも苦言があった。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	対象者を更に絞り込む。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	人件費はない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担金はない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	現在の対象者も特定の年齢区分、金額にしてきた経過があり、財政的負担を考慮すると適切である。
		有効性	特定年齢が支給対象として定着してきている。
		効率性	高齢者事業全体として考え、支給金額を見直して削減も必要である。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	本町に多年貢献をされた高齢者の方の長寿を祝うものとして等しく公平に本事業を実施していく。
		効率性	経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。